

令和5年度

「ふるさと学習」

実践事例集



令和6年4月
廿日市市教育委員会

令和5年度 「ふるさと学習」 実践事例集
目 次

〈学校名等〉		学年	〈単元名〉	〈ページ〉
1	廿日市小学校	5	食べ物を調べよう～地産地消のオリジナル弁当を作ろう～	1
2	平良小学校	3	探検しよう！調べよう！ぼくたち・わたしたちの学校	2
		4	平良のまちを守り隊～防災意識UP大作戦！！～	3
		5	環境について考えよう！	4
		6	廿日市の今を未来につなげよう！	5
3	原小学校	3～6	原の未来わくわく町づくりプロジェクト～ふるさとを知ろう！創ろう！発信しよう！～	6
4	宮内小学校	3	宮内ってすてき！～宮内のよさを発信しよう～	8
5	地御前小学校	5	「地御前の海を守ろう」～地御前の宝を発信しよう～	9
6	佐方小学校	6	SAGATA TREASURE～伝えたい！知りたい！佐方の文化～佐方小学校区の町のためにできること～	10
7	阿品台東小学校	3	「阿品台のすてき 見つけ隊！伝え隊！広げ隊！」	11
8	阿品台西小学校	3	阿品のすてき～ふるさととのすてきを見つかけよう～	12
9	金剛寺小学校	4	串戸の福祉～串戸のまちづくりをしよう！～	13
10	宮園小学校	3	みんなのピオトープ	14
11	四季が丘小学校	6	四季が丘未来づくりプロジェクト～四季が丘を住み続けられるまちにしよう～	15
12	友和小学校	6	ふるさととの伝統文化を発信しよう～ふるさと廿日市の魅力を伝えよう～	16
13	津田小学校	6	「津田の歴史をたずねよう」～津和野街道～	17
14	吉和小学校	3～6	吉和の宝を見つけ、発信しよう	18
15	大野東小学校	1	なつがやってきた・いきものとなかよし たのしいあきいっぱい	19
		2	みんなでつかう まちのしせつ	20
		3	大野のすてきな人を見つけよう	21
		4	災害を調べよう・災害に備えよう	22
		5	「廿日市の『味力』伝え隊」	23
		6	「大野の今を見直そう！」	24
16	大野西小学校	4	大野のステキを見つけよう	25
17	宮島小学校	6	宮島の町並みを伝えよう	26
18	廿日市中学校	1	わたしたちのヒロシマ・廿日市～より良いふるさとにするために～	27
19	七尾中学校	2	「ふるさと広島・廿日市」の魅力を近畿との比較を通して、発見する。	28
20	阿品台中学校	1	「ふるさと学習Ⅰ(阿品)防災学習」「ふるさと学習Ⅱ(宮島)SDGs」	29
21	野坂中学校	1	宮島について探ろう	30
22	四季が丘中学校	1	自分の住む地域を将来どんな街にしていきたい？	31
23	佐伯中学校	1	佐伯の魅力を再発見しよう～地域の活性化への提案～	32
24	吉和中学校	1	吉和の未来を考えるⅠ	33
25	大野中学校	3	大野元気プロジェクト 地域に貢献しよう～大野の未来を考える～	34
26	大野東中学校	2	廿日市・大野と京都の比較学習	35
27	宮島中学校	2	なぜ人々は働くのだろうか	36

単元名

「食べ物を調べよう」 ～地産地消のオリジナル弁当を作ろう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎あなたにとっての「ふるさと」とは？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●廿日市のよさって何か。

【単元の目標】

- ・廿日市産の食材・伝統料理を調べ、オリジナル弁当を考える活動を通して、郷土の良さを再確認する。また、課題解決に主体的に取り組み、協力して課題の解決を行う力を育成する。
- ・キャリア教育の視点から、オリジナル弁当販売体験を通して、働くことの価値を考える。
- ・自分たちの活動のまとめとして、参観日にオリジナルレシピの発表会を開き、表現する力を高める。

【連携諸機関・人物】

- ・JA 佐伯中央 久保田英樹様
- ・平良小学校 竹本裕美栄養教諭
- ・宮内小学校 大野早百合栄養教諭
- ・阿品台西小学校 渡田晴香栄養教諭
- ・株式会社 A & C 木本雄太様
- ・廿日市市役所（学事課）、廿日市 FM、ゆめタウン廿日市、廿日市中央市民センター、廿日市市民活動センター、廿日市高校、廿日市中学校、岩崎チェーン、スパーク、JSS 廿日市スイミングスクール

活動の概要

日本の農業の課題を学習し、自分たちに出来る取組として、『地産地消のオリジナル弁当を作ろう』という課題を設定した。廿日市特産の食物について情報収集し、弁当作りや販売に向けて具体的な計画を立てた。実際には、廿日市の食材を使ったレシピを作り、A & C さんに弁当の製造を依頼した。そして、児童が弁当の良さをアピールするチラシやポスター、包装紙を作り、地域への宣伝、学校での販売を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用 等



＜JA の方からのお話＞



＜稲刈り＞



＜試作品＞

- ・導入段階で、社会科の「わたしたちの食生活と食料生産」の学習と関連づけ、JA の方からお話を伺いながらバケツ稲を実際に育てることで、児童の食への興味・関心を高め、自分たちにできる取組を考えた。
- ・お米について調べたことを整理分析し、新聞にまとめる際には、国語科で「新聞記事を読み比べよう」の学習と関連付け、意図が伝わる見出しの付け方や図表・グラフの活用法を考えさせた。タブレットを積極的に活用した。
- ・株式会社 A & C 木本雄太さんから話を伺うことで、児童の自分たちが実際にお弁当を作ること、販売することへの意欲を高めた。
- ・廿日市特産の食物についてタブレットを活用して調べた後に、廿日市の良さについて話し合うことで郷土への愛着を高めた。
- ・レシピを考える際には、ご飯、魚、肉、野菜、デザートの中から児童が興味・関心のあるチームを自ら選択できるような学習形態をとった。
- ・考えたレシピを実際に作る活動を取り入れたことで、よりよいものを作るための改善点を自分事として具体的に考えることができた。
- ・栄養士の方からの話や家庭科「食べて元気！ご飯とみそ汁」の学習において栄養バランスについて学習したことで、児童が考えるレシピを栄養面から見直すことができた。
- ・弁当をより多く売るための方法を考え、地域への宣伝を行った。児童主体で計画・実行することで、課題解決能力の育成を図った。
- ・自分たちで考えたお弁当の販売を学校で行い、児童の達成感や満足感を高めた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 児童主体で弁当販売の計画・実行をすることで、意欲的に活動する児童の姿が見られた。
- 廿日市の良さを再確認し、お弁当という形でその良さを表現することで、郷土への愛着が深まったり、地産地消への関心が高まったりなど、児童の意識の変容が見られた。
- ◇廿日市特産の食物で知らないものもあったので、調べてよかった。特産品を家庭でも買って、廿日市に貢献したい。
- ◇自分たちが考えた弁当が多くの人に買ってもらえたことで、廿日市の良さも伝わったと思う。これからも、たくさんの人に廿日市の良さを知ってもらいたいし、発信していきたい。

単元名

探検しよう！調べよう！

ぼくたち・わたしたちの学校

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎ 「木の町はつかいち」として平良小学校の特色やよさをどのように伝えたいだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

● 平良小学校の校舎の特色やよさは何だろうか？

【単元の目標】

150周年を意識し、現在の平良小学校の校舎の特色やよさについて知ることにより、自ら課題を設定し、インタビューや資料収集を通して課題解決に取り組み、集めた情報を比較、分類、関連付ける等して整理する中で、平良小学校にかかわる人々の学校や地域を愛する気持ちについて気づき、いろいろな人に分かりやすく伝える方法について考え実践する態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

・平良小教職員
・石原工芸

活動の概要

学年ごとに異なる様々な木を活用した現在の校舎の調査や昔の校舎（石原工芸内）の見学等の体験活動を通して情報を収集し、整理・分析を通して自分のテーマを設定した。

創立150周年記念行事に児童や保護者、地域の方へ平良小学校の校舎の特色やよさについて分かりやすく伝える方法について考え、プレゼンテーションを実施した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用 等



＜木のぬくもりのある校舎＞

＜昔の校舎の見学＞

＜150周年記念行事でのプレゼンテーション＞

- ・見慣れた校舎の木に関する「ひみつ」について自由に探究する調査活動の設定や地域の企業「石原工芸」の中に現存する昔の校舎を見学する活動を通して、現在の校舎や昔の校舎の特色やよさの違いについて知ることにより、興味・関心をもたせることができた。
- ・150周年記念行事において、「平良小学校の特色やよさ」について児童・保護者・地域の方等いろいろな人へ伝えることができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 現在の校舎への問いをもち、「ひみつ」についてグループで相談しながら自由に探究する姿が見られた。
- 昔の校舎が石原工芸の工場の中に現存することに驚き、見学を通して同じ木造でありながら現在の校舎との違いに気づき、興味・関心をもつことができた。
- ◇ 平良小学校の校舎がいろいろな木でつくられていることや石原工芸に昔の校舎があることにびっくりしました。みんなで協力して、調べたこと伝えることができてうれしかったです。

単元名

平良のまちを守り隊

～防災意識UP大作戦！！～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎ 平良の町の人を守るためにどうすればいいだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

● 平良の町の人を守るために何をどのように伝えたらいいだろうか？

【単元の目標】

地域や家庭の防災意識や地域で行われている防災の取組について知ることにより課題を設定し、地域の方から話を聞いたり、体験したりすることで得た情報を整理し、比較・分類したり、関連付けたりしながら多様な解決方法や発信の方法を考える。解決したい課題について身近な人や地域の防災に携わる方に話を聞いたり、体験活動をしたりしながら学習を行う中で、防災の必要性を知り、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付くことで地域への愛着を深める。

【連携諸機関・人物】

- ・保護者
- ・平良地区自治会
- ・平良市民センター
- ・ひろしまマイ・タイムライン
廿日市市役所危機管理課

活動の概要

家族への意識調査、自治会の方から学校にある備蓄倉庫の説明、備蓄品の体験活動、廿日市市役所危機管理課の方から話を聞く等の活動を通して課題を設定し、情報を整理・分析し、創立150周年記念行事において、児童・保護者・地域の方へ「防災意識UP」をめざした様々なプレゼンテーションを行うことでいろいろな人の防災意識を高めるための実践を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用
- 等



＜ひろしまマイ・タイムライン＞ ＜備蓄品の体験活動＞ ＜150周年記念行事でのポスターセッション＞

- ・自分自身や家族の防災に対する意識の低さに気付き、地域や行政の方に話を聞くことや校内にある備蓄倉庫の存在を知ること、備蓄品の体験等を通して、災害への備えについていろいろな人に伝えたいという思いをもたせることができた。
- ・テーマに沿って分かりやすく伝えるために具体物や提示物、PP等表現方法の工夫を行うことができ、150周年記念行事において児童・保護者・地域の方等広く伝える活動を行うことができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 自分自身の防災への意識の低さに気付き、GTの話や備蓄品の体験活動を通して、自分が初めて知ったことについていろいろな人に伝えたいという思いをもち、グループで話し合いながら表現方法について検討を行う姿が見られた。
- ◇ 災害が起きたら三角巾・ガムテープ・反射テープをリュックに入れておくといいことが分かった。特にレインコートは簡単に作れて便利だと思った。避難していない高齢者の人と一緒に避難したい。

単元名

環境について考えよう！

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎ 環境を守るためにはどうすればいいだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

● 環境を守るために自分たちにできることは何だろうか？

【単元の目標】

日本、世界が抱えている環境問題を知ることや水辺の生き物調査等の体験活動を通して、課題を設定し、情報の収集や整理・分析を行い、現在の環境問題について150周年記念行事で児童・保護者・地域の方へ伝える活動や環境を守るために自分たちにできることを考え、実践する。

【連携諸機関・人物】

・広島県環境保健協会
・廿日市市環境政策課

活動の概要

社会科や理科の学習における情報収集や水辺の生き物調査等の体験活動を通して、世界・日本・平良における環境の現状について把握し、各自で追究する課題を設定する。情報収集や整理・分析を行い、環境の現状や環境を守るための工夫等について150周年記念行事で児童・保護者・地域の方へ伝える活動を行った。その後、自分たちにできることについて情報収集し実践を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜水辺の生き物教室＞



＜150周年記念行事でのプレゼン＞



＜自分たちにできること＞

- ・社会科や理科等と関連して地球規模の環境問題についての知識を習得することや地域の川の環境調査を体験することで、身近な平良の環境について考える手立てとなった。
- ・それぞれのテーマに沿って分かりやすく伝えるために具体物や提示物、PP等表現方法の工夫を行い、150周年記念行事において児童・保護者・地域の方等広く伝える活動を行うことができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- SDGsの視点から環境問題について深く考えることができ、体験活動を通して自分たちも問題としてとらえる姿がみられた。
- 150周年記念行事で、自分たちのテーマについて、児童・保護者・地域の方へと表現を工夫しながら伝えることができた。
- ◇ 地域の川の調査活動を通して、これまで川の環境は悪いと思っていたけれど、生き物がたくさんいることや水がきれいなことが分かってよかった。

単元名

廿日市の今を未来につなげよう！

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎ 150 周年を迎えた平良小学校を未来につなぐにはどうすればいいだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

● 平良小学校への人々の思いを伝えるには何をどのように伝えたいだろうか？

【単元の目標】

創立 150 周年を迎える平良小学校の今昔について、インタビューや資料を活用した情報収集を行い、課題を設定し、さらに多様な手法を活用しながら情報収集を行い、150 周年記念行事において、人々の思いや願いを伝えるための表現の工夫を検討し、伝える活動を通してこれからの平良小学校への思いにつなぐ実践を行う。

【連携諸機関・人物】

・平良地区自治会
・石原工芸

活動の概要

現在の校舎への移転時に作成した記念誌や昔の写真をもとに、昔の平良小学校やその時代の人々の日常生活や学校生活について情報収集を行い、課題の設定を行った。さらに、地域の方から、子どもの頃の様子についての聴き取りを行い、平良小学校の学校生活や日常生活、時代背景についての情報収集を行った。整理・分析を行い、150 周年記念行事で児童・保護者・地域の方へ効果的に伝えるための表現方法について検討を行い、それぞれのテーマに沿った効果的な方法で伝えることができ、これからの平良小学校への思いにつなげる実践を行うことができた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜地域の方からの聴き取り＞



＜150 周年記念行事でのプレゼンテーション＞



・150 周年記念行事では、「平良小学校の歴史」「ウォークラリー」「平良小学校の生活 3 世代の劇」の 3 つのテーマに分かれ、当日までの計画の作成やそれぞれのテーマに沿った効果的な表現方法を吟味し、児童・保護者・地域の方へ人々の思いについて伝えることができた。これらの学びから平良小学校を未来につなげることの大切さに気付くことができ、いろいろな人に平良小学校について伝えていこうという思いや実践につなげることができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 150 周年記念の年の最高学年として、平良小学校にかかわる資料や人とのかかわり、同じテーマの友だちと効果的な表現方法について検討を行い、人々の思いについて伝えることで、達成感を味わうことができていた。
- ◇ 平良小学校の歴史について学ぶ中で、自分たちが知らない歴史がたくさんあった。今まで自分で学んだ歴史を保護者や地域の方に伝えることができて良かった。

単元名

原の未来わくわく町づくりプロジェクト ～ふるさとを知ろう！創ろう！発信しよう！～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎ふるさと原のよさとは、何だろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●ふるさと原の魅力について調べ、発信しよう！

【単元の目標】
自分たちが住んでいる原の文化・産品について調べ、体験したことをもとに、原のよさを自分たちで考えた方法で発信する。

【連携諸機関・人物】

- ・眺楽座
- ・市民センター企画委員
- ・女性会
- ・伊勢神楽団
- ・極楽寺
- ・立善寺

活動の概要

原地域の方々から様々な「原のよさ」についてお話を聞かせていただき、『ふるさと原の魅力について調べ、発信しよう！』として自分たちで取り上げたい内容を選び、発表形式を考えた。自分たちの必要とする情報やもの、技術について地域の方から情報収集し、問題点の解決に向けて具体的な計画を立てた。練習でも、児童の主体性を大切にしながら「教え込むのではなく、児童が求めるものを伝え教える」ことを地域の方々にお願ひし、児童自らが発表をつくりあげていけるようにした。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

活動風景



作体験 1～4年＞



＜原神楽＞

＜説教源氏節＞

＜蛇の池伝説＞

＜地産地消料理＞

- ・計画を立てる段階から、異学年でプロジェクトチームを編成し、児童が主体的に興味・関心のある事柄について協力して調べ、体験し、発信できる学習形態をとった。
- ・児童の達成感や満足感の向上につなげるため、150周年記念式典で発表し、地域の方々や保護者からのリアクションを直に受け取ることができるようにした。
- ・発表の形式は児童に委ね、ICTの活用や実演等、発想を生かして伸び伸びと表現できるようにした。
- ・地域学校協働本部を中心として、地域の方々の協力を仰ぎ、児童が調べたいこと、体験したいことが最大限実践できるようにした。
- ・稲作体験やサツマイモ栽培体験、低学年生活科での「まちたんけん」など、今まで学んだことを生かしていけるよう、助言を行った。

- ふるさと原の歴史ある文化の素晴らしさと、それを守り受け継いでこられた方々の努力について調べ、活動の中で実際に演じたり作ったりする機会を得て、児童が地域に対する誇りや愛着を得ることができた。
- 自分たちで発信の形式を工夫することにより、バラエティーに富んだ発表の形が生まれ、学び合うことができた。
- 創立１５０周年記念式典での発表により、保護者だけでなく地域の方々からあたたかいメッセージを寄せられ、児童はじふんたちの表現力について自信を得ることができた。
- 異学年同士で助け合い、学び合うことで高学年にはリードしていこうとする自覚が生まれ、下学年はその行動を見て学ぶなど、刺激しあって成長していく様子が伺えた。
- ◇原の文化は、受け継いでこられたの方々によって今自分たちがふれることができる。自分たちも受け継いでいきたい。
- ◇活動によって、初めて知ったふるさとのよさがあった。工夫して地産地消を進めたり自分たちが文化を受け継いだりすることで、これからも原のよさを広めていきたい。

単元名

宮内ってすてき！
～宮内のよさを発信しよう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎未来の宮内はどうなっているのだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●宮内の町にはどんなよさがあるのだろうか？

【単元の目標】

自分達が住んでいる地域に関心を持ち、町探検や交流活動などを通して、様々な視点から宮内のよさを発見し、地域に誇りと愛着をもとうとする。

【連携諸機関・人物】

- ・保護者
- ・地域のお店
- ・専念寺
- ・町づくり協議会
- ・市民センター
- ・ゲストティーチャー

活動の概要

これまでの経験から、宮内の町のよさについて考え、歴史・店・地域行事などの視点から見つめ直すことで、今まで知らなかった宮内のよさに気づき、そこから見えてきた疑問点を解決するために課題設定をした。インターネットや町探検などの調べ学習を行い、今の宮内があるのは、地域を守る人々の思いや願いがあることに気づき、地域で活躍している人へインタビューする活動を設定した。

宮内のよさをもっと広めたいと『宮内のよさを発信しよう』と課題設定し、発信する相手や方法を考え、グループに分かれて新聞やスライドを作成し、保護者や地域の方に見つけたよさを発信した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



<地域の歴史めぐり>



<新聞作り講座>



<発信>

- ・これまでの経験を想起し、昔から残るお寺や専念寺など、宮内の歴史巡りから昔から大切にされているのはなぜだろうかという疑問をもち課題設定を行った。
- ・インターネットでの調べ学習や、地域の人へインタビューする活動などを通して、課題解決のための情報収集を行った。
- ・新聞やパワーポイントなど、目的にあった情報発信の方法を選択し、個人・グループなど学習形態を変えて、調べたこと・考えたこと図や写真などを効果的に使いながらまとめた。
- ・調べたことを表現するために、国語科の「外国のことをしょうかいしよう」の単元と関連させ、まとめたことをグループ内で分担しながら分かりやすく説明するために話し方の工夫をした。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 自分達が住んでいる町でも、知らないことがたくさんあることに気づき、意欲的に自分の選んだテーマについて調べることができた。
- 課題解決の際に、新たな疑問を抱き、それを解決するために自ら地域に出向き、インタビューする姿が見られた。
- ◇新聞記事の見出しや記事に順番など、国語科で学習したことを生かすことができてよかった。
- ◇グループで、意見がまとまらず苦労したが、最後は役割分担して発表できてうれしかった。

単元名

「地御前の海を守ろう」
～地御前の宝を発信しよう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎地御前の宝を守るために、私たちにできることは何だろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●地御前牡蠣の魅力って何だろう。

【単元の目標】
全国に知られる地御前牡蠣，自分たちが住んでいる地場産業の一つである水産業について理解を深め，一層ふるさと「地御前」のよさに気づき，ふるさとを大切にしようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・地御前漁業協同組合
- ・地御前郷土文化保存会

活動の概要

児童は，とる漁業，育てる漁業等，様々な水産業が盛んである地御前の宝「地御前牡蠣」をより多くの人に発信したいと感じていることから課題を設定した。地域の方々に協力していただき，体験学習を行ったり，インタビューを行ったりした。また，調べたことは目的に応じた表現の仕方を考え，保護者や地域の方に発信した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用 等



＜情報収集の様子＞



＜体験学習の様子＞



＜表現の仕方の工夫＞

- ・課題設定の場面で，牡蠣ドリルを活用したことにより，地御前牡蠣への興味関心を高めることができた。
- ・漁業協同組合の方々の活動の様子を実際に見学・体験することで，牡蠣養殖の問題点や働く人々の努力や工夫を知り，地御前の産業を愛する豊かな心を育むことにつながった。また，社会科や国語科の学習と関連付けたり，身近な生活とつなげたりしながら探究のサイクルを回すことができた。
- ・地御前牡蠣のよさに気づき，ふるさとを大切にするという目的のもと，表現の仕方を選択・工夫し，友達と協働的に活動に取り組み，発信することができた。
- ・ロイロノートやドキュメント等の ICT 機器を活用して情報を整理し，児童同士で共有できるようにすることで，他のグループの学びを自己の学習に生かそうとしたり，探究への意欲の向上につなげたりすることができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 働く人々の努力や工夫を見たり聞いたりすることで，「地御前牡蠣を守り続けたい」，「地御前のよさをもっと広く発信したい」という気持ちが高まった。
- 発表に向けた協働学習では，グループ内・グループ間で相互評価をし合い，探究への意欲が向上した。
- ◇地御前の素晴らしさは，地域の人々に支えられていることを実感した。地御前の水産業を自分たちも守っていききたい。そして，地御前のよさをもっと多くの人に伝えたい。

単元名

SAGATA TREASURE

～伝えたい！知りたい！佐方の文化～
～佐方小校区の町のためにできること～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎地域の魅力をどのように伝えれば好きになってもらえるか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●地域の魅力を伝えるために自分たちにできることは何か？

【単元の目標】

自分たちが住んでいる地域がどんな地域か探究し、その魅力をより多くの人に効果的に発信するためにはどのような方法がよいか考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・地域の方（畑本さん）
- ・佐方八幡神社
- ・洞雲寺前公園
（弾丸鉄道跡）
- ・佐方保育園
- ・ほうりん幼稚園
- ・佐方市民センター

活動の概要

導入で地域のフィールドワークを行い、自分たちの住む地域について情報収集をしたり、地域の方から佐方小校区の町について話を聞いたりして、地域の魅力を多くの人に伝えようという課題を設定した。佐方小校区の町の歴史や文化、自慢などについて調べたことや自分たちにできることなどをグループでまとめた。様々な方法（スライド・紙芝居・人形劇・ポスター・クイズラリー・コマーシャル動画・パンフレット等）で佐方の町の魅力を伝えようと話し合いを重ね、校内で発表イベントを行ったり、保育園や幼稚園に紙芝居や人形劇などを見せに行ったり、成果物を市民センターに展示したりするなど、地域の魅力を校内・地域へと効果的に発信した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



<地域の魅力再発見>



<校内での発表>



<園・所との交流>



- ・フィールドワークをしながら地域の方の話を直接聞く形で学習を出発させたことで、児童の関心・意欲が高まった。
- ・国語科「町の幸福論」の学習と関連させ、考えたことを実行していこうというゴールを設定したことで、最後まで主体的に取り組む姿が見られた。
- ・グループごとに自分たちが調べたことをまとめる際には、誰にどのような方法で伝えることが効果的かを考え、ICTも活用しながら様々な方法でまとめて、発信することにした。
- ・校内で発表イベントを開催したり、保育園や幼稚園と連携したり、パンフレットやポスターを地域に置いてもらったりするなどして、多くの人に見てもらうことができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 身近ではあるが、意外と知らない地域の魅力を楽しみながら再発見していく姿が見られた。
- 地域の方と直接ふれあう機会を多く設定することで、人とのかかわりを通して学ぶ姿が見られ、充実感や達成感が高まった。
- 地域の行事に進んで参加する姿が見られた。
- ◇地域の魅力を多くの人に伝えることができたが、もっと知りたいという思いが強くなった。
- ◇自分の住む町を詳しく知ることで、これからも佐方の町を大切にしたいと思うようになった。

単元名

「阿品台のすてき 見つけ隊！伝え隊！広げ隊！」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎阿品台のすてきを伝えるには、どうすればいいだろう？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●わたしたちのまち阿品台には、どんなすてきがあるのだろう？

【単元の目標】

自分たちが住んでいる町について知り、すてきなところを見つけ、周りの人に広めていくことで、地域についての関心を高め、大切にしていきたいという態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・阿品の森サポータークラブ
- ・阿東つ子応援隊

活動の概要

生活科の学習のまち探検や、社会科の学習で地域について調べていく上で、自分たちが生まれ育った阿品台の中でも知らないことや行ったことがない公園などがたくさんあることを知り、『阿品台のすてき見つけ隊！』を設定した。身近な町の公園をいくつも巡り、それぞれの良さを考えたり情報収集をしたりして調べて分かったことをまとめて、伝える活動を実施した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・地域人材、財産等の活用
- ・ICTの効果的な活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科（社会科・図画工作科）等との関連



＜公園巡り＞



＜阿品の森散策＞



＜プレゼンテーション＞

- ・実際に地域を見学したり、インタビューをしたりする活動を設定し、**児童から課題を引き出した**ことで、その後児童が、自分ごととして主体的に活動に取り組んだ。
- ・児童の達成感や満足感の向上につなげるため、調査や活動を通して分かったことを**スライドにまとめてプレゼンテーションを実施**し、他者からのリアクションを受け取ることができるようにした。

児童生徒の姿（○），児童生徒による振り返り（◇）

- 普段何気なく生活している町にも、知らないことや場所がたくさんあることに気付くことができた。
- 阿品台の景色や施設、公園や地域の方など、興味をもったことについてグループ分けを行い、「阿品台のすてき」が聞き手に分かりやすく伝わるスライドを作ることができた。
- ◇ボランティア活動を行ってくれている人達のおかげで、阿品台が住みやすい町になっていることに気付けた。自分たちの調べたことを、友達や家族に知ってもらえてうれしかった。これからは色々な活動を行って、もっと阿品台のことを好きになってもらいたい。

単元名

「阿品のすてき」 ～ふるさとのすてきを見つけよう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎ふるさとの素敵って何だろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●廿日市のすてきって何だろう。

【単元の目標】

自分達の住む阿品地域や廿日市のすてきな所を発見したり、ふるさとで生きていく良さを考えたりする。それを保護者や地域の方に発信する活動を通して、地域に親しみを持ち、地域に関わろうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・市役所（プロモーション戦略課）
- ・株式会社ジブンノオト
キャリア教育デザイナー
大野圭司さん
- ・大長なす生産者
阿部勝也さん
- ・廿日市木材利用センター

活動の概要

阿品地域にある自分のおすすめの場所を調べ、リーフレットにして紹介した。
キャリア教育デザイナーの方に「ふるさとで生きる面白さ」について話をしてもらったり、大長なす生産者の方の話を聞いたり、木材利用センターでけん玉の作り方等を見学し、廿日市について親しみをもった。
学習したことを Google スライドにまとめ、保護者や地域の方に発信した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜「ふるさとで生きる面白さ」について考える＞ ＜大長なす生産者の方との交流＞ ＜Google スライドを使った発表＞

- ・キャリア教育デザイナーの大野さんから「ふるさとで生きる面白さ」について話してもらい、自分が将来廿日市や阿品で働く姿を思い描いた。
- ・大長なす生産者の方から、野菜を生産する苦労や楽しさ、意義等を話してもらい、自分たちの食を支えている人々の存在を認識した。
- ・国語科「案内の手紙を書こう」の学習で、保護者へ「廿日市のすてき発表会」の招待状を書いた。
- ・総合的な学習で「廿日市のすてき発表会」を行った。Google スライドを活用し、保護者や地域の方に向けてプレゼンテーションを行った。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 体験学習や調べ学習をする中で、廿日市の素敵なおところをもっと見つけたいと意欲を高めた。
- Google スライドを活用し、聞き手の興味を引く工夫をするなど分かりやすく伝える発表用スライド資料を作成し、プレゼンすることができた。
- ◇廿日市には、自慢できることがたくさんある。廿日市以外の人に廿日市の良いところを教えていきたい。
- ◇私たちが大人になって、廿日市で働くと、廿日市はもっと楽しくて素敵なまちになると思う。

単元名

串戸の福祉 ～串戸のまちづくりをしよう！～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎みんなが住みやすい町とは、どんな町だろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●串戸の町にはどんな福祉があるのだろう。

【単元の目標】

自分たちが住んでいる串戸の福祉について、体験活動やインタビューを通して知り、みんなが住みやすい町になるために自分にできることを考え、実践しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・廿日市市社会福祉協議会
- ・阿品台手話サークル
- ・点訳クラブあい
- ・くさのみ作業所

活動の概要

「福祉って何だろう？」という問いかけから、自分たちが住む場所には、どのような人がいて、どのように生活しているのかについて調べていく中で、「みんなが住みやすい串戸のまちづくりをしよう！」という課題を設定した。手話、点字、車いす体験や認知症学習を通して、体の不自由な人達がどのようなことに困るかを考えた。考えたことを生かして、子ども達一人一人が自分の通学路を通して体の不自由な人たちにとって危険な場所や安全に配慮された場所を調べ、自分達ができることについて話し合った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜車いす体験＞

＜手話体験＞

＜認知症学習＞

＜点字体験＞

- ・廿日市市の団体と連携し、4種類の体験活動を行った。**様々な体験活動を仕組むことによって、体の不自由な人の苦労や努力に児童が気付くことができた。**
- ・自分の通学路を実際に歩き、体の不自由な人の立場に立って考え、どのようなところで困るか、危険かを考えることを通して、**自分たちの町を全ての人にとって暮らしやすい町にしていこうという意欲**を高めることができた。
- ・chromebook のジャムボードを使って、**串戸の町の問題点や良い点についてまとめ、3年生に発表**した。よりよい発表になるよう**児童なりの改善点も話し合うことができた。**

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 自分の通学路を実際に歩いて、町の問題点について考えることで自分たちの町を全ての人にとって暮らしやすい町にしていこうという「まちづくり」の視点をもつことができた。また、自分の生活と学んだことを結び付けて考え、自分ができることをやっいていこうという意欲をもつことができた。
- 様々な体験活動を通して、目の不自由な人や車いすを利用している人などに会った時にどうすればよいかを一人一人が考え、実行しようという意欲をもつことができた。

単元名

みんなの ビオトープ

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎命と伝統をつなぐとは、どういうことだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●地域の自然やビオトープのよさを知ってもらうために、自分達ができることは、何だろう。

【単元の目標】

宮園の豊かな地域の自然に触れたり、ビオトープに行き生き物を観察したり、植物を育てたりする活動を通して、自ら設定した課題解決に向けてグループで協力しながら活動に取り組むことによって、宮園ビオトープのよさを広く伝えることができる。

【連携諸機関・人物】

- ・宮園ビオトープの会
- ・トンボ博士
- ・鳥博士
- ・カブト虫博士
- ・虫博士
- ・宮園市民センター
- ・日本生態系協会

活動の概要

宮園小学校には、地域と学校と保護者で創り上げ、受け継いできたビオトープがある。ビオトープの会の方と野菜を育てたり、生き物を観察したり、生き物博士の話を聞いたりする活動を通して、課題『ビオトープのよさを知ってもらうために、自分たちができることを考えよう。』を設定した。実際には、全体で、ビオトープ啓発のためのリーフレット作りを行った。また、グループ（生き物図鑑・ビオトープと環境・ビオトープの清掃や腐葉土作り・自然遊び体験・ビオトープ内の看板作り）に分かれて、それぞれの活動を行い、自校の低学年をビオトープに招待したり、リーフレットを作成し、校内や地域に配布したりするなどの活動を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、地域資源等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用 等



- <ビオトープの紙芝居><キャベツ植でしかけ作り><ヤゴ救出作戦> <昆虫採集> <各グループ活動><感謝の会・低学年への発表><リーフレット>
- ・ビオトープで実際に野菜や虫の観察をするなどの体験活動を行ったことで、児童が自然のよさを体感し、課題意識を持って主体的に活動に取り組んだ。
 - ・自分たちが取り組みたい課題を出させ、興味・関心のあるグループで活動を行うという学習形態をとったことで、児童が主体的・計画的に活動した。また、自分たちで地域の方と一緒に地域の財産であるビオトープで活動を行ったことで、地域への愛着を深めた。
 - ・理科（春・夏の自然に飛び出そう・チョウ・ヤゴを育てよう）や国語（レポート・リーフレット作り）など、他教科で学んだ知識や技能を相互に関連付けながら、横断的・計画的に活動を行った。
 - ・児童の達成感の向上につなげるために、調査や活動して分かったことや感じたことを、全体でリーフレット1枚にまとめ、保護者や児童、地域に配布したことで、他者からのリアクションを受け取ることができるようになった。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 宮園小学校のビオトープは、地域みんなで作った宝物であるという意識をもち、これからも生き物や地域の憩いの場として大切にしていきたいという思いをもった。
- それぞれのグループが、ビオトープに興味を持ってもらえるように、多方面から紙芝居やクイズ、スライドなどで活動や調べたことをまとめ、相手を意識しながらリーフレットにまとめることができた。
- ◇児童の振り返りには、自然のよさや生き物の成長に対する驚きなどを感じているものや、ビオトープが、生き物や植物の大切な住処であると共に、自分達の心を癒す場所だから、ずっと大切に守っていききたい、というような、願いに関わるもの、地域の財産として、受け継いでいくために、自分の出来ることをしていきたいという記述が多く見られた。

単元名

四季が丘未来づくりプロジェクト ～四季が丘を住み続けられるまちにしよう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎ 10年後、私達はどんな社会に住みたいだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
● 四季が丘の未来を住みよくするために自分達でできることは何だろう。

【単元の目標】
社会問題と SDGs「17の目標」とのつながりに触れ、環境問題や持続可能なまちづくりに関する課題等の背景にある原因について調べる活動を通して、自ら課題を設定したり、課題解決に必要な情報を集めたりしながら、未来を創る担い手として何ができるか積極的に考え、実践しようとすることができる。

【連携諸機関・人物】
・ 四季が丘市民センター
・ 四季っ子応援団

活動の概要

世界が直面している課題から SDGs という達成目標についての理解を深め、国語科の「町の未来をえがこう」の学習を通して、町づくりに参画することの大切さを学んだ。その二つの学習をつなぐことで、「四季が丘の未来を住みよくするために自分達でできることは何だろう」という課題を設定することができた。四季が丘の現状や課題について情報収集し、その結果を整理・分析し、他市町の事例も参考にしながら四季が丘をよりよくするための取組を考えた。複数の取組を学級全体で吟味し、中でも地域への貢献度が高いと判断したものを実践した。

★アピールポイント★

- ・ 授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・ 地域人材、財産等の活用
- ・ 児童の心を揺さぶる仕掛け



<調査結果>

- ・ 情報を集める際には、市が提供している四季が丘地区に関わる実際のデータや、住宅団地が抱える問題についての書籍などを活用することで、地域の現状について現実味のある調査を行うことができた。
- ・ 四季っ子応援団の方の協力のもと、地域を実際に歩いて調査を行った。事前学習で得た見方・考え方を通して自らの目で確かめることができ、より深く地域の現状を探究し、理解することができた。
- ・ 取組内容を吟味する際には、「問題点を解決するものであるか」「継続して行うことができるか」「自分達に可能か」など視点を明確にし、具体性をもって比較・検討することができた。

<交流>

<実践>

児童生徒の姿（○），児童生徒による振り返り（◇）

- 地域の現状について本格的な資料に基づいて分析したり、SDGsの見方・考え方を活かしてフィールドワークを行ったりしたことで、多くの児童が課題意識をもち、活動に主体的に取り組むことができた。
- 他地域の地域活性の取組を参考にすることで、「地域を大切にすることの重要性を紙芝居で下学年へ伝える」や「地域の魅力をアピールする看板を作って設置する」など、自分たちの地域に合った取組を様々な考え、その中から十分に吟味したものを実践することができた。
- ◇「地域を大切にするために、これからも自分たちにできることを積極的に取り組んでいきたい。」と、地域への愛着や未来へ向けて参画意識を高めたものや、地域の現状を知ることや広めることの大切さに気づき、解決するために取り組みたいといった記述が多く見られた。

単元名

ふるさとの伝統文化を発信しよう
～ふるさと廿日市の魅力を伝えよう～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎友和・玖島地域とはどのような地域だろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●友和・玖島地域の魅力は何だろう。

【単元の目標】

地域を調べることを通して、自分たちにできることは何かを考え、よりよく課題を解決しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・友和・玖島地域見守り隊
- ・有限会社田原農園
- ・株式会社 ACORN 徳の風プロジェクト
- ・株式会社イワタ木工

活動の概要

普段何気なく目にしているが実態を知らない施設や場所について調べることを通して、友和や玖島地域の魅力について探った。具体的には、城跡や津和野街道散策、胡蝶蘭の農園や養殖コオロギ、廃油のリサイクル施設などの見学、けん玉工場からゲストティーチャーの招聘の機会を活用し、栽培の工夫や創作の仕方、環境問題や昆虫食などについての学びを深めた。

★アピールポイント★

・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用・他教科等との関連



<養殖コオロギ見学>



<農園見学>



<けん玉教室>

- ・地域を見学したり、インタビューをしたりする活動を通して、インターネットでは分からなかった疑問が解決できたとともに、地域の自慢の場所が増え、魅力が深まった。また、これらの学習を通して、働く意義を考えることにもつながった。
- ・児童の達成感や満足感の向上につなげるため、活動を通して分かったことや考えたことを新聞や動画にまとめ発信した。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

○自分たちが生活している町には、人の役に立ち、たくさんの人を笑顔にしている場所が多くあることに気付くことができた。そして、どの方々も誇りをもって働いていることを理解することができた。

◇友和や玖島地域には、まだまだたくさんの魅力があることを知りました。自分たちがつくった動画や新聞を多くの人に見てもらって、その魅力を知ってほしいです。

◇昆虫食や廃油のリサイクルなど未来につながる大切な施設がこの地域にあることがうれしいです。

単
元
名「津田の歴史をたずねよう」
～津和野街道～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎津田の歴史をさらに多くの人に知ってもらうためには、どうすればよいだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●津田の町には、どんな歴史があるのだろうか？

【単元の目標】
地域の歴史に関心を持ち、郷土への愛着を持ちながら、よりよく課題を解決し、自分の考えをまとめ伝える資質や能力を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・山里くらぶ
- ・さいき文化センター
- ・さいき図書館

活動の概要

400 年以上前の史跡である「津和野街道」が地域にあることを知り、パンフレットやインターネット等から情報収集を行った。その後、「山里くらぶ」に所属する地域の方々のお力を借りながら実際に津和野街道を散策し情報収集や理解を深め、その成果をパンフレットやリーフレット、DVD映像等にまとめ、さいき図書館等を媒介として地域へ発信を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用 等



＜津和野街道関連展示（宮島口旅客ターミナル）＞



＜津和野街道散策＞



＜津和野街道リーフレット等提示（さいき図書館）＞

- ・今年度も「実体験を伴う教育活動」と「地域への発信」を特に意識し教育活動を推進した。昨年度の児童の成果物が宮島口旅客ターミナルに展示され、「自分たちも！」という意欲を高め活動を開始した。
- ・6月に実施した津和野街道散策では、地域の山里くらぶの皆さんから学ぶことも多かった。児童の学習意欲も更に高まり、より主体的な教育活動につながった。
- ・さいき文化センターのロビーにて児童たちの作成したPR動画を上映していただいたり、リーフレットやパンフレットもロビーやさいき図書館に置いていただいたりするなど、昨年度以上に地域への発信を行うことができ、校外の方からも高い評価をいただいた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 昨年度と同様、それぞれ津和野街道の担当スポットを決めたことで一つについて深く学んだり、グループでまとめる際に責任感を持って活動できたりするよさがあった。
- 自分たちが作成したパンフレットやDVD映像、絵画等が学校外、市内外の多くの方の目に触れ、高い評価を受けたことは大きな自信につながっていたようだった。
- ◇様々な史跡が自分たちの住む津田の地域に残っていることを知り、それを誇りに思い大切に残し続けたいという気持ちをもつことができた。

単元名

吉和の宝を見つけ、発信しよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎10年後、吉和がどんな地域になればよいだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●吉和の宝は何だろうか。

【単元の目標】
・吉和地域の宝（魅力）について理解を深め、その魅力を他者に分かりやすく伝える方法を考え、発信することを通して、地域の一員として地域の活動に取り組もうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・吉和漁業協同組合の方（山崎さん 安藤さん 深瀬さん）
・山口県岩国市立川上小学校

活動の概要

・吉和の魅力の一つである、漁業に注目し、あゆの放流体験や組合長のインタビューを通して得た情報から、新たな気付きや発見を3～6年の縦割りグループでスライドにまとめた。そして同じ複式学級で学習している山口県岩国市立川上小学校とオンラインで交流を行い、まとめた資料を活用できた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜放流体験＞

＜インタビューの様子＞

＜オンライン交流＞

- ・吉和漁業協同組合の山崎さん、安藤さん、深瀬さんへのインタビューを通して、主体的に地域の漁業について学ぶことができたようにした。
- ・グループは3～6年の縦割りで構成し、高学年が3・4年生にスライドの作成方法や発表の仕方を教え合える学習形態の設定をした。
- ・同じ複式学級で学んでいる山口県岩国市立川上小学校との交流をゴールとして設定することで、目的意識・相手意識をもった学習となるようにした。
- ・自分たちの取組が新聞に掲載されたことで、自己有用感を高めて、次の課題に取り組むことができた。

＜新聞記事＞

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 地域の方へのインタビューを通して、吉和地域の漁業について詳しく学ぶことができた。
- 県外の小学校へ地域のよさを紹介するという目的意識があったため、発表の仕方やスライドの伝わりやすさなどを工夫する姿が見られた。また、同じ複式学級の学校だったため、自校と比較をしながら、意欲的に交流に臨んでいた。
- ◇吉和の川を守っている人たちを知ることができた。これからも大切にしていき、放流など地域で行われる行事に参加していきたい。

単元名

なつが やってきた・いきものと なかよし たのしいあき いっぱい

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎身近な自然は、自分たちにどのような恵みをもたらしているのだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●自分たちの身の回りには、どのような自然があり、どのようなよさがあるのだろうか。

【単元の目標】

身近な自然に進んで関り、美しさやよさを見付けたり、変化に気付いたりできる。

【連携諸機関・人物】

- ・学校近くにお住いの農家の方
- ・学校近くの草原の持ち主さん

活動の概要

○学校の近くの田んぼ・草原・神社に自然観察・採集に行き、よさや特徴に気付く。
春：田植え前の田んぼ（れんげ畑）に行き、稲作の話を知ったり、虫取りや草で遊んだりする。
夏：草原に虫取りに行き、虫を飼育し、観察する。
秋：神社に行き、落ち葉やどんぐりを拾う。それらを使って見立て遊びをしたりおもちゃを作ったりする。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



- <れんげ畑でかえるをゲット！> <えいっ！コオロギ見つけた！> <どんぐりをたくさん拾うぞ！>
- ・れんげ畑は、学校からとても近い場所にあるため、年間を通して気軽に観察に行き変化を見付ける事ができる。
 - ・虫取りの後、飼育した気付きを、国語科の「はっけんしたよ」の作文単元に生かすことができる。また、どんぐりや拾った落ち葉で見立て遊びをし、国語科の「なににみえるかな」の話合い単元に生かすことができる。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- れんげがきれいに咲いていた場所が、全く印象の違う田んぼになっていたり、青い稲が重く実ったり、刈り取った後に更にひこばえが生えたりして、見るたびに変化する様子に驚いていた。
- 生活科で実際に経験したことを国語科の学習に生かすことができ、すべての児童が話したり書いたりする素材をもって学習に臨むことができた。
- ◇1本の稲穂にたくさんのお米が実って、びっくりしました。
- ◇神社にたくさんのどんぐりが落ちていて、また拾いにいきたい。
- ◇「柿を自由に取っていい」と書いてあったので、おうちの人ともぎにいきたい。

単元名

みんなでつかう まちのしせつ

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】

◎自分たちのまちのくらしを豊かにするためには、何が必要だろう。

【単元を貫く問い】

●まちには、どんな施設があり、自分たちの生活とどうつながっているのだろうか。

【単元の目標】

○公共施設の見学を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたり、それらを支えている人々がいることに気付く。また、公共施設やそこで働いたり活用したりしている人々を大切に思うことができるようにする。

【連携諸機関・人物】

- ・まるくる
- ・大野図書館
- ・大野東市民センター
- ・大野学校給食センター
- ・施設の職員の方々
- ・2区区長さん
- ・学校支援ボランティアの方々

活動の概要

1. 自分たちの生活に関係する公共施設は、どこにどんなものがあるか調べる。
2. 施設（まるくる、図書館、大野東市民センター、給食センター）に見学に行く。
3. 見学して分かったことをまとめ、伝え合う。
4. 学習を振り返る。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

<まるくる>

全開できる窓にびっくり！



<東市民センター>

備蓄倉庫の中を見学



<給食センター>

大きなおたまとしゃもじを使って



- ・どこにどんな施設があるのかを校区地図に示すことで、身近な場所にたくさんの施設があることを知り、「行きたい、見たい、知りたい」という関心・意欲をもたせることができた。生活を支えていることに気付かせることができた。
- ・それぞれの施設で、備え付けてある物を見たり、話を聞いたりすることで、まちの人みんなが楽しく利用しやすくなるように、様々な工夫がなされていることに気付かせることができた。
- ・まるくるや市民センター等が、災害の時の避難場所になっていて、まちの人達にとって安全で安心できる、くらしを支える場であることに気付かせることができた。

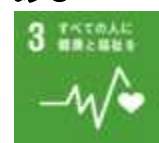
児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 身の回りには、たくさんの公共施設があり自分たちの生活と関りが深いことに気付くことができた。また、そこで働いている人達の仕事にも大変興味をもって質問していた。
- 色々な人に支えられていることに気付く、感謝の思いをもつことができた。
- ◇まるくるや市民センターに備蓄庫があることを初めて知った。
- ◇給食センターでは、少ない人数で約2500食の給食を作られていることにびっくりした。

単元名

単元名 大野のすてきな人を見つけよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎自己の生き方を考えていく力を育成するために、どんな学び方をしていくとよいのだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●ふるさと大野で、大野のために活動しているすてきな人とはどんな人だろうか。

【単元の目標】

見学や体験活動を通して収集した情報を整理し発信することを通して、地域のよさを再認識し、人との関わりを大切にしていこうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・甘日市社会福祉協議会
- ・手話サークル「かざぐるま」
- ・点訳グループ「てのひら」
- ・特定非営利活動法人 友志人福祉会

活動の概要

大野で様々なボランティア活動をしている方から実際の活動内容を教えてもらったり、活動に対する思いに触れたりすることを通して、身近な「大野のすてきな人」を見付ける。興味をもったことについて自分で課題を設定し、課題解決に取り組むとともに、学んだことを新聞にまとめる。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



<手話教室>

- ・ボランティア活動に興味をもつことができるよう、実際に活動をしている方から活動の内容や思いを教えていただける機会を複数回設け、児童が体験的に学べるよう計画した。
- ・児童が体験活動を通して、障害者の方の生活での困り感やボランティアの方の必要性に気付くとともに、自分自身も相手の立場に立って思いやりをもった関わりをしたいと意欲をもった。
- ・児童が主体的に課題を見つけ、意欲的に調べ学習に取り組むことができるよう、四つの体験活動の中からより調べたいことを選択できる学習形態にした。



<点字体験>



<車椅子体験>

児童生徒の姿（○），児童生徒による振り返り（◇）

- ボランティアの方から活動内容を教えてもらったり、体験させてもらったりすることで、ボランティアに興味をもつことができた。
- 興味をもったボランティアに関わる新聞をまとめとして作成し、工夫して表現する力を身に付けることができた。
- ◇障害のある人は大変な思いをしているので助けてあげたいと思いました。
- ◇夏休みにも同じ体験をしたので、それが生かして、相手に対してどうすることがいいかなどを見つけれられました。

単元名

災害を調べよう・災害に備えよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎「命を大切にすること」のためにできることは何か。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●「自助」「共助」自分にできることは何だろう。

【単元の目標】

自分たちが住んでいる地域にはどんな災害が起こりうるのか、廿日市市ではどのように備えているのかを知ることによって、自分たちがどのように災害に備えればよいかを考える力を育てる。

【連携諸機関・人物】

・廿日市市役所大野支所
防災担当者

・広島県危機管理監
みんなで減災推進課
(担当者2名)

活動の概要

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1 風水害を知ろう | 4 防災公園を見学しよう |
| 2 マイタイムラインを知ろう（ペッパー君と共に） | 5 分かったことをまとめよう |
| 3 自分たちの住んでいる地域を調べよう | 6 単元全体の振り返りをしよう |

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜出前講座の活用＞



＜話し合い活動＞



＜地域人材の活用＞

- ペッパー君や、避難グッズに必要なものを考える学習など、出前講座を活用したことで児童が興味をもって学習に取り組み、理解も深まった。
- 地域の自主防災組織の方々と連携して、実際に避難場所を見学したり自主防災組織の方々に取組について話を聞いたりすることで、自分が住んでいる地区のことを詳しく学習できた。
- 校区に新しくできた防災公園を見学することで、身近に素晴らしい施設があることを知ったと同時に、体験活動を通して災害後の暮らしの大変さを知り、防災に対する理解が深まった。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 非常持出袋の中身を何にするかを話し合う際に家族の設定を設けたことで、一人一人に合わせた持出袋が必要だということに気付いた。そして、本当に必要なものは何か、荷物を最小限にするためにどうしたらよいかという具体的な話し合いになったことで、防災に対する意識を高めることができた。
- ◇ 「大野地域では大雨による災害が多いことが分かった。」「人々との助け合いが命を守ることになるので、地域の行事に積極的に参加したり、周りの人を大切にしたりしていきたい。」「災害が起きたら、家族や他の人のためにできることがあるか考えて動いていきたい。」

単元名

「廿日市の『味力』伝え隊」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎わたしたちは地域にどのように関わっていけばよいだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●自分たちの地域を活性化するために私達ができることは何だろうか？

【単元の目標】

- ・地元の食材を調べることを通して、地元の食材のよさに気付く。
- ・そのよさを生かしたメニューの開発・発信を通して、大野のよさを再発見する。
- ・探究的な学習に主体的に取り組むとともに、友だちと協力し、積極的に地域の人々に関わろうとする

【連携諸機関・人物】

- ・佐伯中央農協（JA）
- ・深江あさり漁場組合
- ・廿日市市の生産者さん（ムール貝、はちみつ、唐辛子、ルバーブ、苺、ねぎ、人参、小松菜、ほうれん草、水菜、白菜）

活動の概要

栄養教諭と連携して、給食に出されている大野産の食材クイズを通して、大野産の食材について知らない（知られていない）ことから、大野産の食材をもっとPR する必要があることに気付かせる。有名な大野アサリについて学習した後、実際にアサリ掘りの体験を行ったり、大野（廿日市）で農作物を生産・出荷されている方にグループでインタビューをしたりすることを通して分かったことをスライドにまとめ交流する。

大野産の食材の魅力を伝えるために、大野（廿日市）産の食材を使ったオリジナル給食メニューを考え、児童や地域の方々にアピールする。（可能ならば、給食メニューとして採用してもらう）

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICT の効果的な活用 等



<あさり掘り体験>

<生産者の方へのインタビュー>

<生産者の方へのインタビュー>

- ・意欲的に取り組めるよう、学習の導入段階で、栄養教諭と連携して廿日市市の食材について考え、最終的に給食メニューに取り入れてもらおうという活動にした。
- ・ICT 機器では調べられない生産する時の思いや工夫を知ることができる（生の声が聞けるよう）、生産者さんに直接インタビュー（できない方には、手紙で）する機会を設定した。
- ・児童が、主体的に計画・実行できるように、興味・関心のある食材を自ら選択できる学習形態をとった。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

○学習の導入段階で、栄養教諭と連携して廿日市市の食材について考え、最終的に給食メニューに取り入れてもらうことを目指すことで、意欲をもって地域の食材の魅力を調べたり、オリジナルメニューを作ったりすることにつながった。

○生産者さんに直接インタビュー（できない方には、手紙で）することで、ICT 機器では調べられない生産する時の思いや工夫を知ることができ、充実した発表内容となった。

◇調べ学習を進める中で、廿日市市の食材の素晴らしさを感じた。このことを、もっと発信していきたい。

◇生産者さんにインタビューする中で、様々な工夫をして生産されていることに気付いた。

単元名

「大野の今を見直そう！」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎地域のよさに気づき、地域に愛着がもてるようにするにはどうすればよいか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●大野の町の魅力は何だろう。

【単元の目標】
大野にある様々な神社や史跡について知ることを通して、大野の歴史・自然・文化を大切に、今まで継承してきている人々の努力や苦労や願いに触れ、これからの自分の生き方について考える学習をする。

【連携諸機関・人物】
・大野歴史ガイドの会

活動の概要

社会科の歴史の学習をふまえて、今の大野の魅力について話し合い、課題「大野の魅力を見つけよう～大野の史跡巡り～」を設定した。大野歴史ガイドの会の案内で西国街道に沿って遺跡や史跡を探索したり、生活道として使われていた中山峠を歩いたりした。大野の歴史的価値やすばらしさ、先人の苦労や努力を知り、それを広く伝えようと新聞にまとめた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

＜中山峠＞



昔の人は、この山道を生活道として活用していたことを知り大変さを実感し、トンネルを作るという知恵に感心した。

＜椎の宮神社＞



大野五郎伝説の四郎が祀られている。四郎は伝説の中で中山地区を開墾したと言われている。昔は椎の木が多かった。

- 地域の歴史ガイドの会と連携し、学級ごとにガイドさんと一緒に史跡を歩いて回りながら、それぞれの史跡で詳しく説明をしていただいた。
- 社会科の歴史学習における理解を深めることができた。
- 道徳「天下の名城をよみがえらせる」という資料において歴史的建造物を大切に、文化を継承することの苦労を学んだ。史跡を大切にしたり文化を継承したりしていくことの意義を考えさせた。
- 調べたことを、ICT 機器を用いてまとめた。見たり聞いたりして分かったことだけでなく、大野の歴史を知ることを通して感じたことや考えたことも書き、交流し合った。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 大野にはたくさんの史跡があることを知り、自分たちも史跡を守りたいという思いをもった。
- 本校の前身である蓮華寺の鐘が、第2次世界大戦後に外国で見つかったことに驚き、社会科の戦時中の生活の様子についての学習で聞いた話が身近でも起こっており、より地域の歴史について深く興味をもつことができた。
- ◇どの史跡にも貴重な歴史が刻まれているので、この先、何百年、何千年と大野に残ってほしいです。
- ◇大野は自然や歴史が豊かな所なのだ改めて思いました。笑顔あふれる大野であってほしいです。
- ◇他にも、また史跡を調べて、家族で行ったときに紹介できるようになりたいです。

単元名

大野のステキを見つけよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎大野のステキって何だろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●大野にある自然のステキって何だろう。

【単元の目標】

自分たちが住んでいる町の自然について知ることを通して、自分たちの住む町のよさについて考え、これらの自然を大切にしようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・廿日市市役所
（生活環境課環境政策係）

活動の概要

児童は、3年生と4年生の2年間で自分の住んでいる大野のステキをさまざまな視点から見つけていく。毛保川を中心に大野の自然の良さを見つけた。毛保川にすむ生き物について情報収集し、実際に毛保川上流の探索をしたり、環境を守る方たちの話を聞いたりした。活動を通して見つけた大野のステキを新聞やスライド等にまとめた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜毛保川探索＞

＜講師を招いての探索・説明＞

＜スライド発表＞

- ・事前に調べたり、実際に探索したりする活動を設定し、児童から課題を引き出したことで、主体的に取り組むことができた。
- ・活動を通して分かったことを、新聞やスライド、ジオラマなど方法を選んでまとめた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- インターネットや体験活動、資料などさまざまな方法での情報収集により、知りたいことについて理解を深めることができた。
- 講師を招くことによって、生き物のすんでいる場所や川の水質等を詳しく知ることができた。
- ◇毛保川に自分たちだけで生き物の調査に行った時には、全く捕まえることができなかったが、環境政策係の人たちに捕まえ方を教えてもらい、たくさんの生き物を見つけることができた。
- ◇毛保川には、きれいな環境で生きる生き物がたくさんいることが分かった。

単元名

宮島の町並みを伝えよう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎ 10年後の宮島はどうあるべきか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
● 観光客に宮島の価値を伝えていくためにはどうすればいいのか。

【単元の目標】 宮島を取材し、町家の歴史や保存の課題を整理する活動を通して、町家にかかわる人たちの思いに気づき、地域のために自分たちにできることを考え、町家のよさや課題に対する自分の思いを伝えるなど、進んで地域に働きかけ行動しようとする。

【連携諸機関・人物】

- ・ 廿日市市建設部都市計画課 歴史まちなみ推進係
- ・ 宮島町家に関わる人
- ・ 地域のアマチュアカメラマンの方

活動の概要

宮島の町家の特徴や課題を知るために、町家で暮らす方々にインタビューを行った。その結果、町家を遺していきたいという思いに辿り着いた6年生は、「観光客に町家のよさを伝えよう」という目標を設定した。そして、文化発表会での地域に向けた発表、京都大原学院6年生への宮島ガイド、観光客に向けたポスター作成に取り組んだ。

★アピールポイント★

- ・ 活動の特色 ・ 授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・ 地域人材、財産等の活用
- ・ 児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・ 他教科等との関連 ・ ICTの効果的な活用 等



＜町家で店を営む方へのインタビュー＞



＜京都大原学院6年生を案内＞



＜ポスター用の写真撮影＞

- ・ インタビューを複数回行い、町家の人の思いにふれたことで、児童は次第に目的意識をもつようになり、誰のための何のための活動なのかを明確にしていっていった。
- ・ インタビュー時に聞き漏らしがないよう動画撮影やドキュメントで文字起こしを行ったりポスターづくりにスライドを用いたりして、ICTを効果的に活用した。
- ・ 発表して終わるのではなく、聞き手から評価を返してもらうことで、目的が達成できたかどうかを確認したり、次への課題を見つけたりすることができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 活動の視点が、自分のしたいことから町家の人が望んでいることになっていった。
- 町家の存在が、宮島の文化財ではなく自分が繋いでいきたい宮島の文化財になっていった。
- ◇町家のために何をすればいいか考えた。今回は、みんなの意見を総合して何をすればいいかを見つけた。
- ◇取材活動で町家に暮らす人の話を聞いて、商売をしている人と生活をしている人の思いが違っていたことがわかった。

単元名

わたしたちのヒロシマ・廿日市 ～より良いふるさとにするために～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎ふるさととはどういうものだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●ふるさとのために何ができるだろうか。

【単元の目標】
2つの世界遺産を中心に、広島市と宮島についての理解を深め、より良い廿日市市にするためのプロジェクトを提案する。

【連携諸機関・人物】

- ・広島平和記念資料館
- ・被爆体験講話講師
- ・市役所（宮島支所）
- ・厳島神社
- ・宮島観光協会 他

活動の概要

広島が誇る世界遺産である原爆ドームと厳島神社について、班の課題（テーマや仮説）に沿って調べ学習に取り組んだ。班別自主研修では、講話やインタビュー、散策を通して課題について検証した。その後、事実と考察をまとめ、スライド発表（ヒロシマ学習）と展示発表（宮島学習）を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜外国人観光客にインタビュー＞



＜厳島神社でインタビュー＞



＜スライド発表＞

- ・身近な2つの世界遺産を軸にして、興味・関心のもてる内容にした。
- ・課題設定、情報収集、整理・分析、まとめといった仮説検証の方法を学べる展開にした。
- ・ヒロシマ学習では、外国人観光客にインタビューする班が多く、英語科の授業で会話文を練習し、実践に生かした。
- ・レポート作成では国語科の教材を使い、教科横断的な学習を意識した。
- ・宮島学習では、自分たちで調査方法を考え、インタビューする事業所や人材を決めた。地域の強みを生かした活動になった。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 自分たちの疑問から課題を設定することで、より主体的に学習する姿が見られた。
- 外国人、観光客、事業所の方等、インタビューする相手が様々だったが、相手に合わせてコミュニケーションをとることができ、達成感や満足感を得られた様子だった。
- ◇事前学習で、班員全員が目的を理解して必要なことを調べてくれたので、調査やまとめがスムーズにできた。調査で撮った写真などを生かして、良いスライドができた。
- ◇外国人に勇気を出して話しかけた。自分たちで話すだけより、準備してきたプリントを見せながら話す方が伝わりやすかった。改めて、世界の人に自慢できるものが広島にあることが分かって嬉しかった。

単元名

ふるさと学習

「ふるさと広島・廿日市」の魅力を
近畿との比較を通して、発見する。

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎自分が育ったふるさとの魅力とは何だろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●自分が育ったふるさとの魅力を大切にしていけるためには、
どうすればよいだろうか。

【単元の目標】 ふるさとは長い間、多くの先人が関わり続けて、守り、育てられたものであることに気づくとともに、他地域との比較を通して、ふるさとの魅力に気づき、誇りにつなげ、地域と主体的に関わっていこうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・修学旅行先宿泊ホテル
・班別自主研修利用交通機関

活動の概要

修学旅行は近畿地方に行き、長い歴史に培われた日本の伝統的文化を学ぶ。広島、廿日市は古代から続く文化・伝統は比較的少ないかもしれないが、探究すると意外に奥深いものが多い。これを班で調べ、修学旅行先で出会う方々に紹介するパンフレットを作成した。その中で、京都や奈良に負けない魅力に気づくことができた。班別自主研修当日、パンフレットを配り、魅力を伝え、誇りにつなげた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



<パンフレット1>



<パンフレット2>



<パンフレット3>

小学校の学習で身近な地域を学習し、広島・廿日市の様子を理解している。さらに中学校での学習で視野を広げ、気候や産業などの特色も理解を進めている。今回の学習で、自分との関わりを掘り下げていくことができた。広島・廿日市で育った自分に誇りを持つことができ、他地域の方に送るパンフレットをつくることで、主体的に地域に関わる態度につなげることができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 広島の様子を調べていくうちに、近畿地方の方に広島のことを知ってもらうために、より正確に伝えたいという気持ちになっていった。結果、備後地方の魅力なども調べていった。
- 七尾中学校区にある無形民俗文化財「原神楽」に迫る班も現れ、地元の誇りに気づく生徒も増えた。
- ◇自分で調べることでいろんな発見ができ、楽しかった。広島の魅力もたくさんあって、知らないことも多いと思った。

単元名

「ふるさと学習Ⅰ(阿品)防災学習」 「ふるさと学習Ⅱ(宮島)SDGs」

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)
◎地域の課題を解決し、魅力を高めるために何ができるだろうか。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)
●私たちの住む廿日市市はどのような特色を持っているのだろうか。

【単元の目標】
自分たちが住んでいる街について知り、SDGs の視点をもって課題の発見と対策を考え、地域と主体的に関わっていこうとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】

- ・日本赤十字広島看護大学
- ・廿日市地域振興課
- ・国土交通省中国地方整備局
- ・廿日市健康福祉総務課
- ・廿日市福祉協議会
- ・廿日市役所総務部危機管理課
- ・自衛隊広島地方協力本部
- ・株式会社タカラトミーサステナビリティ推進部社会活動推進課

活動の概要

- ・阿品台地区の防災について、連携機関からの講義及び ICT を活用して情報収集・まとめ・発表を行った。地域の防災活動と連携して学習内容の発表を行った。
- ・宮島のフィールドワークでは、地域の良さや課題を再発見し「私の SDGs 宣言」を行った。
- ・企業と連携して、SDGs の視点を身近に考える学習のまとめを行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICT の効果的な活用 等



＜防災学習＞



＜宮島学習＞



＜SDGs と地域学習＞

- ・防災の課題に対応した複数のグループを編成し、主体的・協同的に計画・実行できるような学習体制を整えた。
ゲストティーチャーとの交流や自衛隊の出前授業を通して、学びを深めることができた。また、学習したことをプレゼンテーション資料にまとめて校内で発表するにとどまらず、地域で実施された防災訓練においても発表した。これにより中学校の学習についての地域理解を深めるとともに、生徒たちの達成感を高めることにもつながった。
- ・SDGs の視点を踏まえてそれぞれの課題を設定した。実際に宮島を見学したり体験をしたりする活動のなかで「私の SDGs 宣言」を行うことで主体的に活動に取り組んだ。
- ・企業の社会活動推進課との連携で SDGs と地域について学んだ。身近なことや地域のことを題材にオリジナルの人生ゲームを作ることを通して、地域と主体的に関わっていこうとする意欲を高めた。

児童生徒の姿 (○)、児童生徒による振り返り (◇)

- 阿品台地区における防災だけでなく、防災の最前線の知識や取組について理解を深めた。
- 宮島学習を通して、地元の歴史や特徴だけでなく、SDGs の視点をもって学習をすすめることができた。
- SDGs と地域の課題や良いところと結びつけて考えを深めることが出来た。
- ◇ 防災学習を通して、地域の市民センターの備蓄品について知ることが出来ました。
- ◇ SDGs について自分の身近なところにあることがたくさんあることが分かりました。それを実行することが難しいけれど、これからは意識して実行していきたいです。

単元名

宮島について探ろう

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎廿日市を好きになってもらうには、どうすれば良いだろうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●宮島とはどんな島なのだろうか。

【単元の目標】
世界文化遺産に登録されている厳島神社を有する宮島について調査することにより、地域に関心を持たせ、ふるさとに誇りを持つ。

【連携諸機関・人物】
・広島FM

活動の概要

世界文化遺産である厳島神社を有する宮島の自然、産業、文化、歴史について課題を設定し、調べ学習を通して特色をまとめた。さらに事前に調べた情報と宮島での現地取材の情報をもとにリーフレットを作成した。また、2学年で行われる修学旅行で廿日市を宣伝できるように、作成したリーフレットは翻訳版を作成する予定である。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



<タブレット学習>



<インタビュー講座>



<リーフレット作成>

- ・生徒は宮島について事前にタブレットで調べた情報をもとに、現地で調査する項目を設定した。
- ・広島FMから講師をお招きし、インタビューの方法について事前に学んだことで、生徒は主体的に質問項目を考えることができた。
- ・生徒が達成感を得られるように、調査活動を通して分かったことをまとめ、班ごとに作成したリーフレットを校内に掲示し、発表の場とした。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 宮島に興味をもってもらえるような工夫をしたリーフレットを作成することができた。
- 自分たちにとって身近な宮島の歴史や文化を知り、廿日市の良いところに気づくことができた。
- ◇宮島には何度も行ったことがあったけど、まだまだ知らないことがたくさんあったことに驚いた。

単元名

【関連のある SDGs の目標】

自分の住む地域を将来どんな街にしていきたい？



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎ずっと住み続けられる街とはどんな街だろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●自分の住む地域を将来どんな街にしていきたいか？

【単元の目標】
自分の住む地域の課題や現状を把握し、将来の姿を予想した上で、自分たちにできることを考え、提案しようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・四季が丘市民センター

活動の概要

高齢化、人口減少が急速に進む地域で暮らす生徒が多く、自分の住む地域の課題や現状を把握させ、将来の姿を想像させることが必要不可欠だと考え、他地域の事例を基に情報収集を行い、課題の解決のための具体案を実行する計画を立てた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



進捗状況はどのくらい？（課題の把握はできた？ 地域人材の活用はできた？ 地域課題の解決はできた？）			
30%	達成できていない	少しできた	達成できていない
50%	達成できていない	達成できていない	達成できていない
20%	達成できていない	達成できていない	達成できていない
10%	達成できていない	達成できていない	達成できていない
0%	達成できていない	達成できていない	達成できていない
10%	達成できていない	達成できていない	達成できていない
20%	達成できていない	達成できていない	達成できていない
30%	達成できていない	達成できていない	達成できていない

＜地域人材へのプレゼン＞

＜実践発表＞

＜進捗状況チェック表＞

- ・検討した内容に具体性をもたせるため、地域人材へのプレゼンを行い、意見を求めることで、より具体的な提案になるよう工夫した。依頼の電話も生徒が行い、自分たちの学びが地域に直接つながっていることを実感させることができた。
- ・実践発表を繰り返すことで、提案内容をブラッシュアップできるように工夫した。地域の課題や現状は個人で調査させ、それを班で共有することで、様々な角度から地域の改善策を考えさせた。
- ・調査の進捗状況をスプレッドシートで申告させ、作業が遅れている班には支援を行うなど、進捗状況を視覚化することでゴールへの見通しをもたせる工夫を行った。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

○身近な地域について、これまで考えたこともなかった課題や将来の姿を学び、自分ごととして地域の課題を感じることができた。

◇物事を計画していくときは、手順をしっかりと考えて、計画することやそれに対する目的を考えて、班の中で共有していくことが大切だと思えるようになった。

単元名

地域学習 佐伯の魅力を再発見しよう ～地域の活性化への提案～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎これからも佐伯が住み良い町になるにはどうしたらよいだろう。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●佐伯の課題を解決し魅力を伝えていくにはどうしたら良いだろう。

【単元の目標】

佐伯の魅力や課題を発見するために、課題解決に向けて必要な情報を収集、整理、分析、活用する力を身に付けるとともに、これからの佐伯の活性化に向けて提案をする。

【連携諸機関・人物】

・広島県立佐伯高等学校
（総合的な探究の時間の発表を聞く。）

活動の概要

佐伯の自然・歴史・観光・文化などテーマに沿って魅力となるものを探究し、佐伯が住み良い町となるための展望と課題について考えた。また、課題解決に向けて、他の山間部の地域の活性化について情報を集め、それらを活用しながら佐伯の魅力を伝えるための具体的な提案を発表した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



<佐伯の魅力について発表>



<文化祭での展示>



<佐伯の活性化について提案>

- ・調べ学習では ICT 機器を活用して多種多様な情報を収集した。また、分かりやすく伝えるための構成や表現方法を考えて、発表をすることができた。
- ・地域活性化の具体例を模索する中で、これからの佐伯の未来を考えるきっかけとなるとともに、地域への関心が高まった。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- ICT 機器を使って発表をすることに慣れてきた。一度作ったスライドをさらに分かりやすく工夫したり、発表原稿を書き直したりする姿が見られた。
- 地域の活性化への提案は情報収集したことを生かし、実現可能で具体的な内容も見られた。
- ◇調べ学習を通してできるようになったことや、力が付いたことを生かして、地域の活性化についてもっとくわしく調べていきたいです。
- ◇佐伯を盛り上げていかないと、今後人口が減少していきます。逆に佐伯に人が集まれば活性化につながるといいます。佐伯に人を集めて、佐伯のことをもっと知ってもらって、行ってみたいと思える町にしたいです。

単元名

吉和の未来を考える！

関連のある【SDGs】の目標



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎過疎化が進む吉和地域を持続可能なまちにするためにはどうしたらいいだろう。

【連携諸機関・人物】

・安田林業

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

①私たちのふるさとにはどんな職業があるのだろう。

②吉和地域の産業は私たちの生活とどう関わっているのだろう。

【単元の目標】

- ・吉和地域で長きにわたって行われている林業を体験する中で、林業をされる方々の思いや林業の魅力に気づき、それらをまとめ表現しようとする態度を育てる。
- ・吉和地域の産業と私たちの生活との関係性について考え、ふるさとへの誇りや豊かな人間性・社会性を育てる。

活動の概要

- ・吉和地域の産業である林業を体験し、林業をされる方の思いや魅力についてまとめ、発表を行った。
- ・吉和の産業について調べ、体験し、まとめることで地域の未来だけでなく、自分の将来について考えた。

★アピールポイント★

- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態
- ・教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用 等



<林業体験の様子>



<発表の様子>

- ・地元企業と連携を行い、地域密着型の体験活動を行うことができた。
- ・森林散策、チェーンソー、薪割り、重機の操作といった他の地域では体験することのできない活動をするを通して、林業にさらなる興味を持つことができた。
- ・Chromebook を効果的に活用し、発表原稿を作成することができた。
- ・保安林を実際に見学することで、環境保全について考えることができた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

◇今回の体験が自分の将来について考えるきっかけになりました。自分たちの生活は森と深く関わっていると思いました。

◇林業をされている方は後世に森林を残して私たちの生活を支えることがやりがいであると分かりました。初めてチェーンソーを使ったり、重機の操縦をしたりして、大変だったけど良い経験になりました。魅力ややりがいを感じながら働けると良いと思いました。

○林業体験学習を通して、働く上で大切なことや大変さについて考えることができた。

○吉和地域の産業について他者により分かりやすく伝えるため、情報整理や分析、データ集め等に主体的に取り組んでいた。

○実際に体験することで、新たな疑問が生まれ、後日追加で質問をする生徒の姿も見られた。

単元名

大野元気プロジェクト
地域に貢献しよう
～大野の未来を考える～

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）
◎大野のまちを活性化するには、どうすれば良いのだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）
●大野に訪問する人を増やし、まちを発展させるためにはどうすれば良いか？

【単元の目標】
大野のまちの活性化についての提案を考え、地域を主体的に活性化させようとする態度を育てる。

【連携諸機関・人物】
・ゲストティーチャー（地域活性プランナー）
・廿日市役所
・ハートフルバス
・宮浜温泉

活動の概要

地域を活性化するための方法を、客観的な事実を根拠に、事象を分析し、自分なりに考えさせるようにした。

グループで立てた仮説を基に、調査・検証を行い、内容を精査して提案を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜全体発表＞

＜スライドを活用＞

＜講師から講評＞

- ・まずは各自で、地域を活性化するための方法をインターネットや資料を活用して主体的に考えた。
- ・班で話し合いをして、改善点や工夫をする点などアドバイスをする機会をもった。
- ・クラスを2つに分け、20人の6クラスで、プレゼンテーションを行った。
- ・その後、各クラスの代表者が全体発表を行い、講師の先生より講評していただいた。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 地域を活性化させるために、お互いにアイデアを出し合う姿が見られた。
- 班で協力し、アンケートを自分達で作ってICTを効果的に活用して表現しようとする姿が見られた。
- ◇大野についてはあまり知らなかったが、大野元気プロジェクトを通して、大野について改めて知ることができた。
- ◇自分の考えや周りの活性化の案を聞いて、自分もいつか大野を活性化させるために小さなことからでも実現させていきたいと思いました。

単元名

廿日市・大野と京都の比較学習

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎廿日市・大野をよりよくするために、何ができるだろうか？

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

●修学旅行先の京都と廿日市・大野との違いは何だろうか？

【単元の目標】

自分たちが住んでいる廿日市・大野と修学旅行先である京都を比較し、廿日市・大野をよりよくする方法を考えて発信する力を育む。

【連携諸機関・人物】

・京都市内の人々
・宮島口周辺の人々

活動の概要

自分たちの住む廿日市・大野がよりよい地域となっていくために何ができるかを明らかにするため、修学旅行先であり観光都市でもある京都と比較する学習を設定した。具体的には、廿日市・大野と京都についてクロムブックを活用して情報収集したり、京都市内の人々にインタビューを行ったりした。そして、宮島口周辺の人々に調べて分かったことをアピールする活動を行った。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等



＜インタビュー（京都）＞

＜学習成果のアピール（宮島口）＞

- ・クロムブックを一人1台活用することで、効率的に情報収集を行うことができた。
- ・修学旅行先でインタビューを行ったり、学んだことをアピールする場を設定したりすることで、生徒が自分ごととして主体的に活動に取り組んだ。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

○修学旅行先でのインタビューや宮島口でのアピールは、緊張しながらも相手の目を見て、うなづく等の反応をしながら実施することができた。

◇京都は廿日市・大野と比べて、人数が多く自分で自慢・アピールできる人が多かった。廿日市・大野の人も、堂々と言えるような自慢を持ち、広げるといいと思う。

◇広島はほとんどカープファンだが、京都では、阪神ファンと巨人ファンの割合が同じくらいになった。プロ野球は、その地域に強く根付いていると思った。

単元名

なぜ人々は働くのだろうか

【関連のある SDGs の目標】



【本質的な問い】（何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」）

◎ 10年後の自分はどうか。

【単元を貫く問い】（単元を通して考え深めていく「問い」）

● なぜ人々は働くのだろうか。

【単元の目標】

地域の仕事や、その仕事に取り組む人々を通して、働くことの意味と自分自身の生き方との関わりに気づき、自分との関わりで考えとともに、今後の学習や生活のあり方に積極的に生かすことができるようにする。

【連携諸機関・人物】

- ・(株) One Purpose
- ・廿日市市役所宮島支所
- ・廿日市市立宮島幼稚園
- ・(株) ジブンノオト
- ・島内事業所 10 か所

活動の概要

探究課題「働くことの意味や働く人の夢や願い」を踏まえて、職場体験学習を探究していけるように位置づけた単元である。具体的には、体験やインタビューを通して、生徒が宮島の社会と関わり、自己の生き方を具体的、現実的なものとして探究し、自分の意思で目標や見通しをもって、進んで実社会・実生活の問題の解決に取り組んだ。

★アピールポイント★

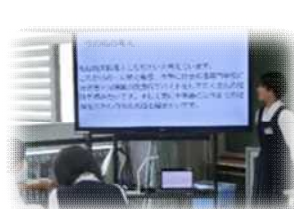
- ・活動の特色
- ・授業展開や学習形態、教材等の工夫
- ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け
- ・他教科等との関連
- ・ICTの効果的な活用
- 等



〈ゲストティーチャーと10年後の自分を考える〉



〈地域の方と〉



〈発表の様子〉

- ・ゲストティーチャーの話を聞いたり、地域の方にインタビューする活動を設定したりすることで、身近な大人の考えを知り、自己の生き方について新たな視点を持った。
- ・「なぜ人々は働くのだろうか」という問いで自分の提言を作り、学級内で交流して相互にアドバイスをし合った上で再度提言を練り直すという学習を行うことで、将来に向けて今自分が何をしていくべきかということを明確にしていた。
- ・プレゼンテーションソフトを活用し、効率よく視覚的にも伝わりやすい資料を作成する活動を行った。

児童生徒の姿（○）、児童生徒による振り返り（◇）

- 学習を通して働くことに対する意識が多様化し、深まりが見られた。
- ◇前は働くことはお金を稼ぐためだと思っていたが、人のために働くということが他の人の発表を聞いて改めてわかった。
- ◇もっとやりたい仕事を調べて、その実現のために必要なことや、やりたいことを見つけておく。
- ◇知識や技能の習得だけでなく、コミュニケーション力・粘り強さ・相手を思いやる力も高めたい。